

令和2年度 飛騨市の予算 一般会計 177億円

市議会3月定例会において、令和2年度当初予算が可決されました。
一般会計及び特別会計、企業会計の総額は288億7,063万円で、前年度当初予算と比較して10億1,581万円の減(△3.4%)となりました。

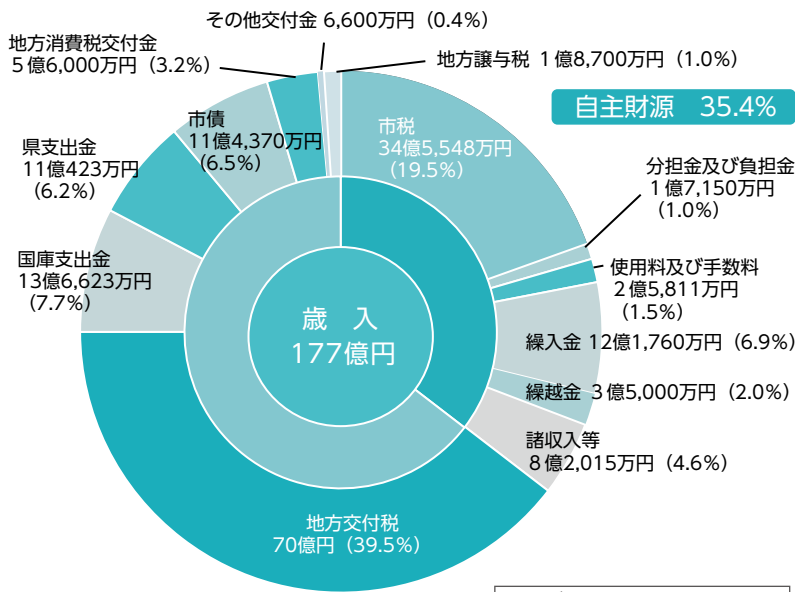
●当初予算の規模

会計区分	予算額	対前年比
一般会計	177億円	△4.9%
特別会計	85億5,800万円	+1.3%
企業会計	26億1,263万円	△7.6%
総 額	288億7,063万円	△3.4%

※増減率は、令和元年度当初予算との比較です

■予算の特徴
令和2年度は、これまで進めてきた「元気であんな誇りの持てるふるさと飛騨市づくり」を更に発展継続させるとともに、新たに策定した「飛騨市総合政策指針」で掲げた本市が目指す5年後の将来像である「みんなが楽しく心豊かに暮らせるまち」の実現に向け、さまざまな場で寄せられた市民の皆さまのご意見や議会でのご提案等をもとに徹底的な政策協議を踏まえ、最重要テーマである「あんな飛騨市づくり」を更に深掘りし、**▼弱い立場の方の支援**
▼暮らしの質の充実を重点政策の柱として位置付け、飛騨市に関わる全ての方が、それぞれの住み慣れた環境の中で心豊かに穏やかに、そして毎日の生活を楽しく暮らすことができる施策を展開していきます。

●一般会計歳入



※表・グラフは表示単位で四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります

●特別会計・企業会計予算の内訳

会計区分・会計名	予算額
特別会計	85億5,800万円
国民健康保険	28億6,750万円
後期高齢者医療	4億2,350万円
介護保険	34億850万円
公共下水道事業	10億4,700万円
特定環境保全公共下水道事業	1億8,100万円
農村下水道事業	3億2,700万円
個別排水処理施設事業	1,400万円
下水道汚泥処理事業	1億6,100万円
駐車場事業	470万円
情報施設	8,700万円
給食費	3,680万円
公営企業会計	26億1,263万円
水道事業	8億903万円
国民健康保険病院事業	18億359万円

■一般会計歳入の状況
市税は新たな小水力発電施設の稼働などにより固定資産税について9千7百万円の増収を見込む一方、税制改正による法人市民税の一部国税化などに伴う減収要素を考慮した結果、全体では3千万円の増となっています。
地方譲与税や県税連動交付金については、昨年10月の消費税率引き上げに伴う影響を踏まえ、地方消費税交付金を1億円増額したほか、地方財政計画に基づき、森林環境譲与税の前倒し交付分として2千3百万円増額しました。
歳入の4割を占める地方交付税は、会計年度任用職員制度に係る追加所要額など増額要素もありますが、現時点では影響額を明確に見込むことが困難であることから、前年度と同水準の70億円を計上しました。
国・県支出金は小学校体育館の耐震化工事に伴う補助や障がい福祉サービスの利用に対する負担金が増となった一方、一定の目的が立った災害復旧費用に対する補助の減額などから、全体で3億2千4百万円の減となっています。
繰入金については、好調なふるさと納税を原資とするふるさと創生事業基金および市民の暮らし応援基金からの繰入4億3千6百万円のほか、公共施設管理基金をはじめとする特定目的基金からの計画的な繰入を3億2千2百万円見込みました。また、財源調整のための財政調整基金からの繰入については、会計年度任用職員制度の施行に伴う追加所要額に充てるため、前年度比1億円増の4億5千万円を計上しました。
市債は交付税措置のある有利な市債しか借入を行わないという方針を堅持しつつ、大型建設事業の完了などから、全体で前年度比8億6千9百万円の大幅な減となっています。

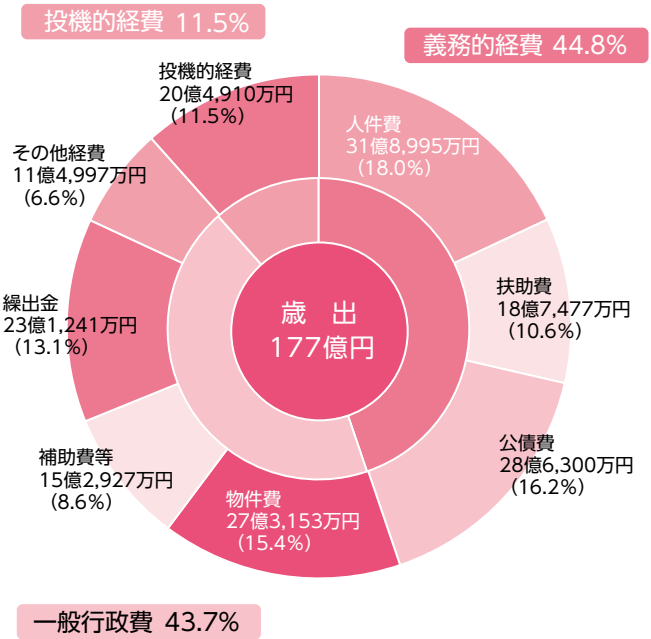
■一般会計歳出の状況
▽総務費(前年比+16億円)
 災害時の体制強化を図るため、各庁舎の非常用電源設備整備や電気自動車等による給電支援体制の整備を進めるほか、新公共交通網計画を策定し、最適な路線バスの運行に向けて取り組みます。
 また、「関係人口」との関わりを更に深めるため、新たに関係案内所を開設し、「関わりしろ」と言われる地域資源や課題とのマッチングを図る仕組みを構築することで、地域活力の向上を目指すとともに、市内での宇宙物理学に係る国際会議等の開催誘致に向けた支援制度を創設します。
▽民生費(前年比△8.0億円)
 高齢者の方々の生活支援のため、買い物のための送迎を自商店で行う事業者への支援を創設するほか、自動車の急発進抑制装置取付費用や補聴器購入に対する助成

制度を創設するとともに、喫緊の課題である医療や介護、福祉現場の人材確保対策のため、特養夜勤者処遇改善臨時交付金の対象施設拡充や外国人材の受入支援、ケアマネージャーの資格取得・ケアプラン作成に係る支援などを重層的に行います。
▽衛生費(前年比+0.7億円)
 飛騨市は高血圧の方の割合が県内ワースト1であることから、全市民的減塩キャンペーンを展開していきます。
 また、不安なく子どもを生み育てられる環境をつくるため、産前産後ママサロンを神岡地区にも拡充するほか、助産師会と連携した赤ちゃん防災士による防災意識の啓発、子育て・介護世帯等の経済的負担軽減を図るため、おむつ処分用のごみ袋を無料配布します。
▽農林水産業費(前年比△0.4億円)

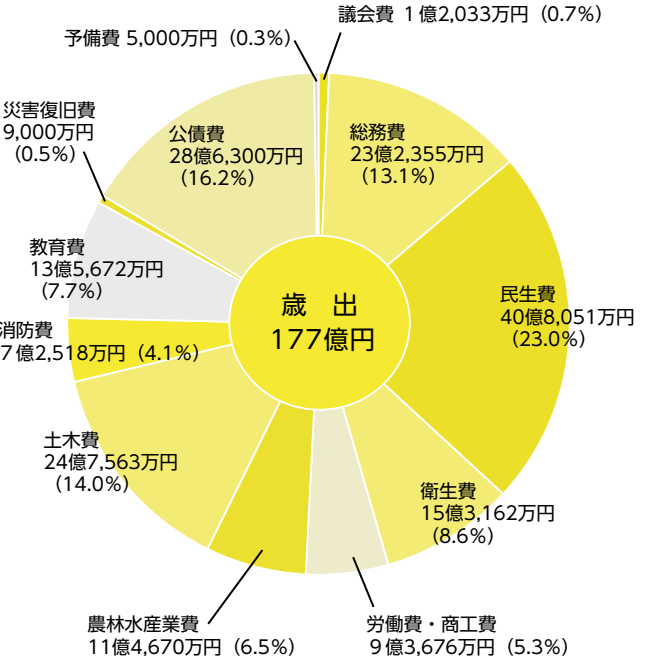
飛騨産米のブランド化と認知度向上のため、首都圏をターゲットとした実証販売や飲食店での使用などにより顧客の反応をブランドディングに活かす取り組みを進めます。また、人材不足を補うためドローンによる防除作業や水田の遠隔管理・監視など、スマート農業を導入する農家への支援を新たに創設します。
 畜産業では、飛騨牛繁殖研修センターの情報発信力を強化し、研修を通じて人材育成による飛騨牛生産体制の強化を図るほか、飛騨市産経産牛や飛騨地鶏のブランド化を進めます。
 林業では、県行政書士会と連携し、山林所有者の特定を進めます。また、小径木広葉樹を活用促進するため、資材生産者から木工作家までの関係者協力の下で新たな流通の仕組みを目指す組織を設立します。

▽商工費(前年比△0.6億円)
 知的財産権の取得に対する支援を新たに創設するほか、新商品の開発など販路拡大に対する支援や空き店舗の流動化を継続して推進します。また、小規模事業者が大規模災害時でも事業を継続できるための実践的なセミナーの開催や受講者に対する特典の創設、インターンシップの活用を促進するための支援など、時代の潮流に合わせた様々な施策を展開します。
 観光分野では、飛騨古川まつり会館を起点とする持続的な集客対策を進めるため、魅力ある企画展を開催するほか、インフルエンサーを活用して全国へ情報発信するとともに、英語版観光ウェブサイトのリニューアルや総合パンフレットを新たに製作することで、旬で魅力的な情報を数多く発信していきます。
▽土木費(前年比+0.3億円)
 子育て環境の充実のため、坂巻

●一般会計歳出 (性質別)



●一般会計歳出 (目的別)



▽消防費(前年比±0億円)
 地域防災の中核を担う消防団員の確保と処遇改善を図るため、災害時等の出動手当を増額するとともに、消防指令システム等の部分更新をすることで、緊急通報等の安定した運用を図ります。
▽教育費(前年比+0.7億円)
 生涯にわたり学ぶことのできる機会を創出し、一流の学問や文学、芸術に触れる環境を整備し、全世代が楽しく学ぶことができる「飛騨市市民大学」を構築します。
 また、地域公民館の改修費用に係る助成対象を拡充し、高齢者の方が利用しやすい環境整備のため、テーブルやイスなどの備品購入に対する助成制度を創設します。
教育分野では、「飛騨市学園構想」による課題解決型の保小中高特一貫カリキュラムの本格実施や新学習指導要領に基づいた英語教育、プログラミングや教育等を積極的に推進するとともに不登校児等を支えるスタディーサポーターによる学習支援を始めます。
 次のページからは令和2年度の主要事業を紹介します。
 また、予算の概要・各主要事業の詳しい内容は市のホームページでもご覧いただけます。